

令和7年度 学校経営方針

1. 基本的理念

少子化社会やグローバル化の進展に加え、AIの急速な発達等、教育を取り巻く環境が急激に変化する中、未来を担う人として、心豊かに将来の夢や目標をもち、創造性やチャレンジ精神を培い、自らの個性と可能性を伸ばしていくことが重要である。

子供たち一人ひとりが古馬牧小学校での学びと思い出を基に、自ら課題を見つけ、主体的に課題と向き合い、他者と協働しながら創造的に解決策を考え、実行し、その責任をとることができる自立した人間として、たくましく未来を生き抜いていけるよう、最後の一日まで教育を組織的・計画的に進め、教育活動の質の向上を図り、学校教育目標の達成を目指す。

2. 教育目標（基本目標）

高い知性と豊かな心情、そして、たくましい意志と創造力をもち、
心身ともに健康で自分をひらいていく児童を育成する

3. 具体目標・目指す児童像

○かんがえる子（知性）	思考力・表現力・判断力・自主性・ <u>創造性</u> ・ <u>探究力</u>
○やさしい子（情操）	感謝・思いやり・協力・ <u>礼儀</u> ・ <u>信頼</u> ・ <u>寛容</u>
○やりぬく子（意志）	勇気・意欲・根気・責任・ <u>努力</u> ・ <u>自己調整</u>
○じょうぶな子（健康）	体力・ <u>心身の健康</u> ・ <u>生活習慣</u> ・ <u>安全意識</u>

4. 目指す学校像

希望・感動・笑顔がいっぱいの古馬牧小学校

5. 経営の重点

(1) 組織運営

○共通理解のもと、互いに支え合い高め合いながら温かな職場づくりを進め、目標達成に向けて、組織的に教育活動の改善・充実に努める。

(2) 確かな学力

○「断えず考える」の精神を生かしながら、仲間とともに「考え、表現し、創り出す」ことで、一人ひとりが「学ぶ楽しさ」を実感できる授業を展開する。

(3) 豊かな心

○互いを大切にし、協力して助け合うことができる人間関係づくりに努める。

(4) 健康・体力

○家庭と連携して、主体的に健康課題の解決や体力向上を実践することができる活動の充実に努める。

(5) 特別支援教育

○多面的な理解のもと、一人ひとりの教育的ニーズを共有し、全職員が協力して個に応じた支援の充実に努める。

(6) 安全・安心

○災害等に対する危機意識の醸成と実態に即した危機管理体制の確立を図る。

(7) 家庭・地域との連携

○家庭・地域との情報共有を密に行い、学校課題や地域課題の解決に向けた協力体制を構築し、教育活動の充実につなげる。

6. 経営の具体化

- (1) 共通理解のもと、互いに支え合い高め合いながら温かな職場づくりを進め、目標達成に向けて、組織的に教育活動の改善・充実に努める。
 - ・教育公務員としての職務を自覚し、法令を遵守し、高い倫理観を保持し、士気の高揚と職場の活性化に努める。
 - ・確認(職員が考え、管理職が承認)・連絡(情報の共有)・報告(進捗状況の管理職への報告)【確連報】の流れを踏まえ、自主性と当事者意識をもって業務を推進する。
 - ・互いの実践に学び合う同僚性の高い職員集団を目指し、OJT、授業研究、今日的な教育課題の理解や対応等を中心とした校内研修を推進する。
 - ・学校評価等をもとに、教育課程の課題の明確化を計画的に実施し、職員全員で改善策を検討・立案し、確実に改善策を実行する。
 - ・教育活動におけるSDGsとの関連を明示し、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進する。
- (2) 「断えず考える」の精神を生かしながら、仲間とともに「考え、表現し、創り出す」ことで、一人ひとりが「学びの楽しさ」を実感できる授業を展開する。
 - ・学び甲斐のある学習課題の設定、協働的な学びの充実、ICTの活用を図り、絶えず授業改善に努める。
 - ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価を明確化し、指導と評価の一体化を図る。
 - ・教師と児童が共に、授業におけるファシリテーションの技量を高める。
- (3) 互いを大切にし、協力して助け合うことができる人間関係づくりに努める。
 - ・子供一人ひとりの存在や思いを大切にする言語環境や教室環境の整備に努め、絶えず子供のよさや個性を認め伸ばす言動を心がける。
 - ・客観的な資料(C&S等の活用)を基にした多面的な児童理解に努める。
 - ・特別の教科道徳の授業改善を中心に、道徳教育の充実に努める。
- (4) 家庭と連携して、主体的に健康課題の解決や体力向上を実践することができる活動の充実を図る。
 - ・児童保健委員会、学校保健委員会等の活動や学級活動を通して、家庭・地域・専門家等と積極的に連携し、健康の大切さを実感させるとともに、課題の把握や具体的な実践の方策を明確化し、実践に結び付ける。
 - ・運動の楽しさや喜びが実感できる「体力向上プラン」に基づき、行事や授業等における運動量の確保を組織的・計画的に実践する。
- (5) 多面的な理解のもと、一人ひとりの教育的ニーズを共有し、全職員が協力して個に応じた支援の充実に努める。
 - ・関係機関や専門家と絶えず連携しながら、児童の一人ひとりの実態と教育的ニーズを把握し、各種計画で目標を共通理解し、個に応じた支援を行う。
 - ・積極的に関係機関等と連携したケース会議を実施し、支援に生かす。
- (6) 災害等に対する危機意識の醸成と実態に即した危機管理体制の確立を図る。
 - ・訓練を基に職員間でマニュアル等の見直しを定期的に行い、改善・周知を図る。
 - ・最新の知見を取り入れ、定期的防災や事故防止、感染症対策に対する意識の向上を図り、日常生活との関連を明示し、実践的な安全教育を推進していく。
- (7) 家庭・地域との情報共有を密に行い、学校課題や地域課題の解決に向けた協力体制を構築し、教育活動の充実につなげる。
 - ・地域の「人・もの・こと」とのつながりを生かし、地域への愛着と誇りを育てる体験活動の充実を図る。
 - ・ホームページ等を活用して、教育活動に関する情報の積極的な発信に努める。